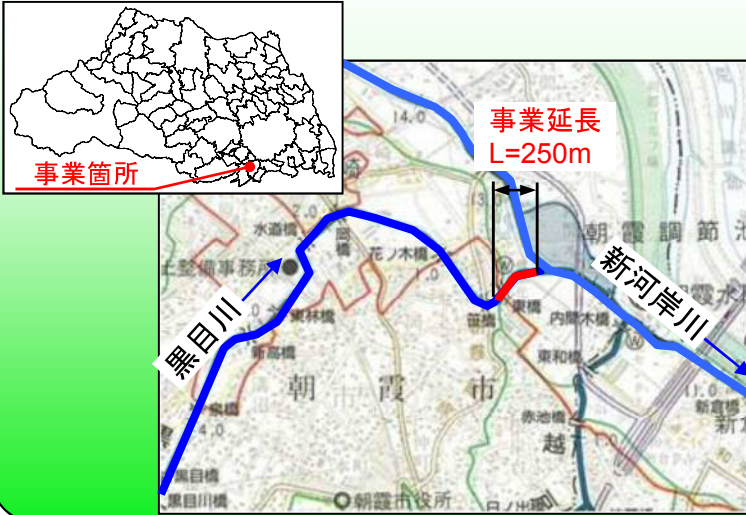


位置図



事業概要

開始年度 平成21年度
 事業延長 L=250m
 事業内容 遊歩道 L= 400m
 ワンド(ビオトープ) 整備

地域の声

自然環境を生かした整備により、地域の親しみの場が創出され、交流のきっかけとなった。

事業経緯

- 黒目川水辺再生事業検討委員会
- ・第1回(H 21.7.20)
 - ・第2回(H 21.9.26)
 - ・第3回(H 21.12.5)
 - ・第4回(H 22.2.6)
 - ・第5回(H 23.5.11)

測量・設計(H 21.6~H 22.6)

工事(H 22.10~H 23.3)

検討会メンバー

田島町内会、朝霞田島住宅自治会、わくわく新河岸川みどりの会、黒目川に親しむ会、黒目川の景観を考える会、朝霞環境市民会議、朝霞湿性植物保護の会、(財)埼玉県生態系保護協会、朝霞市、埼玉県

地域活動

- ・川の国応援団美化活動団体が清掃活動を実施
- ・地元団体が清掃活動や川まつりを実施

整備の状況



湧水など自然環境が良好であるが水辺に近づけない(H 22.5撮影)



スロープや遊歩道の整備により活動しやすくなった(H 23.11撮影)

事業概要



整備テーマ ポイント

水や生物と親しむことができ、水際に近づける場所の創出

- ポイント①: 自然と触れ合え、利用しやすい場をつくる
- ポイント②: 生物のすみかとなる、良好な水辺環境をつくる

★: ビューポイント

◇木製護岸◇

岸辺が浸食される箇所へは木製護岸を設置した。木杭、じゃかご等を用いて水生生物がすみやすい環境とした。



◇ワンド(ビオトープ)◇

湿地性動植物の生息生育空間を創出した。干満の水位差により、水の深さや土の水分条件が少しずつ変化するため、様々な動植物が生息生育する可能性が広がった。



★シンボルツリー広場

(河川合流点のビュースポット)



シンボルツリー広場

◇遊歩道の整備◇

東橋とシンボルツリー広場をつなぐ遊歩道を整備した。スロープの勾配は緩やかにし、擬木を使用した階段によるショートカット動線も設けた。自然景観に調和した資材を使用することで良好な景観を形成した。



◇せせらぎ(湧水起源)◇

水に触れる空間として水がわき出る場所からワンドまでせせらぎ水路を整備した。石や木杭など自然素材を利用し多様な環境とした。湧水がワンドへ注ぎこむことでワンド内の水質を良好に保つようにした。



湧水部

せせらぎ断面イメージ

